

2015年度図書館主催展覧会報告

2015年度は図書館主催展示を3回開催した。以下、その概要を述べ活動報告とする。

図書館企画展

1

アルドの遺伝子

—学術出版の祖アルド・マヌーツィオ 500 年忌—

会 期：2015年10月5日(月)～2015年11月19日(木)

会 場：総合学術情報センター 2階展示室



2015年は、ルネサンス時代にヴェネツィアで活躍した印刷出版業者アルド・マヌーツィオの500年忌であった。本展覧会は、それを記念して企画したものである。雪嶋宏一教授(教育・総合科学学術院)の監修により、図書館と東京製本倶楽部が共催し、アルドとその後継者たちの仕事及び、彼の「遺伝子」を受け継いで

出版された様々な資料によって、彼の業績を振り返るものとした。

本展は4部構成とし、ルネサンス時代から現代に至るまで、連綿と引き継がれているアルドの「遺伝子」を楽しんでいただける展覧会となった。また現役装丁家によるルリユール作品も展示した。

会期中は関連イベントとして雪嶋宏一教授によるギャラリートークと東京製本倶楽部による手製本ワークショップを行った。こちらも大変好評であった。

企画展

2

日本古典籍の世界 和歌と神道

—上野理旧蔵資料から—

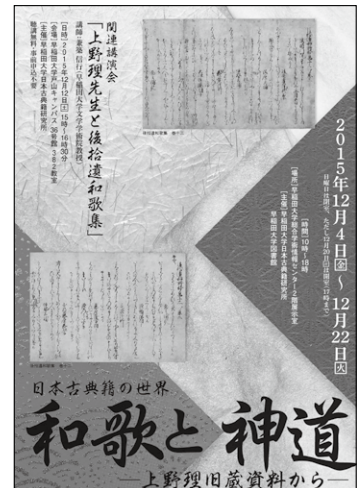
会 期：2015年12月4日(金)～2015年12月22日(火)

会 場：総合学術情報センター 2階展示室

本学名誉教授、故上野理先生(1935-2007)は、ご自身が積年収集された古典籍資料を、2006年に図書館にご寄贈下さった。すでに目録も完成し、古典籍総合データベースで画像を公開しているが、それらの資料をまとめてご紹介する機会がこれまでなかったため、お元気であれば満80歳になられるはずの2015年に、早稲田大学

日本古典籍研究所と図書館の共催で企画展を行った。

上野理先生は、『万葉集』から中世和歌まで、日本の古典文学を幅広く研究対象とされていたが、そのコレクションは和歌に関する資料のみならず多様な内容であった。中でも『中臣祓』を中心とする神道関係の文献は、特異なコレクションとして注目される。そこで本展は「和歌」と「神道」を二本の柱に設定した。今回の展示によって、日本の伝統的な文化の基層となる世界をうかがい知り、実物の古写本をととして古典籍の持つ豊かな世界的一端に触れていただけたと思う。



3

図書館企画展

風雲の志—幕末維新を生きた志士たちの言葉

会 期：2016年3月24日(木)～2016年4月27日(水)

会 場：総合学術情報センター 2階展示室



幕末、激動の時代を駆け抜けた「志士」たちの多くは年若く、大学生にとっては「同世代」ともいえよう。

本展では、志士の一人であり、貴重な資料を多数寄贈された本学図書館の恩人、田中光顕収集の「維新志士遺墨」を中心とする展示を行った。志士たちの言葉(メッセージ)を主軸に、時代の変化と

志士たちの抱いた信条の多様性を示すとともに、大隈重信の前半生および東京専門学校開校までをたどった。

本展は好評を博し、本学が維新志士の書画を多数所収していることへの驚きの声も寄せられている。吉田松陰、坂本龍馬、西郷隆盛といった誰もが知る志士たちの遺した言葉に触れ、彼らが抱いていた「風雲の志」に思いを馳せるとともに、歴史資料への興味をお持ちいただけたものと思う。